



佳作（株式会社伊織賞）

白石の鼻 春の夕日

林 聖二

布 糸

作品について

2021年脳梗塞を患い右半身麻痺になりました。左手で何かできないかと思い始めたタフティング。少し出来だしたので、元気なときに何度も見に行った白石の鼻の春分の日夕日です。また行きたいな思いを込めて。

講評

布の上に束ねた糸を縫い込んでいく「タフティング」の技法で作られたラグマット。テーマとしたのは、松山市高浜の名所である白石の鼻巨石群で、岩の間から夕陽が差し込んでいく様子が表現されています。脳梗塞で半身麻痺となった作者が、麻痺のない左手だけを使ってつくることができたのが、絵画や陶芸などではなく、このタフティングだったのでしょう。ゆっくりと時間を掛けて制作を進めていった様子が目に浮かびます。自身の体験に基づいた光景というモチーフ選定が秀逸で、夕焼けの綺麗なグラデーションの描写も実に見事です。

（櫛野展正）